

品川神社は、旧東海道品川宿からみると、西の高台にある。ちょうどその日は、彼岸の中日であった。その時ぼくは、ある雑誌に、「東京歳時記」というのを連載していて、この日は鳥居ぐるりがあるときいて、それを取材しに立ち寄ったのである。鳥居ぐるりでは、まず、正面入口の石造大鳥居をくぐった。それから石段を上がり、途中の富士塚では、うしろから上がって下りていき、塚の鳥居をくぐるのだった。三代将軍徳川家光献上の鳥居もくぐった。境内には七つの鳥居があり、これをくぐって、神社のお札を受けねば、中風にならぬというのだった。七つの鳥居があるのは、都内ではここだけと神社ではいった。しかし、神社が彼岸とどう関わっているのか、くぐる人にきいたがわからなかつた。一つには、神仏混交の頃の、傍らの東海禪寺の守り神ゆえに、彼岸の仏事として扱いが、そのまま残ったかと考えられた。

彼岸の中日に、早朝、恵方の社寺に参る習慣は、昔からあった。また、中日には、日の出から日の入りまで、社寺に参れば心が洗われるとしたのである。それは、昼夜の長さが同じの、春分、秋分の日を大事に思う、日に従うの思想がそうさせたのである。社寺へは、遊び場や憩いの場として、民衆が集まつた。お開帳や、流行神の縁日も作られるようになつた。人と神仏の交流は、信仰であり、娯楽でもあつたわけだ。社寺では、数字を冠した縁日が多かつた。七福神詠や、十三詠、四万六千日、十夜法会など数字はわかりやすく、また、ご利益が重なるような思いが注がれたからだ。数字では、七という数を、なぜか縁起がいいとした。

わが町あれこれ

八 景 坂

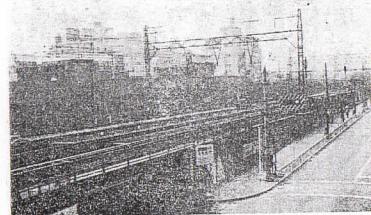
この坂は、昔もっと急であり、大雨が降つたりするとまますます崩されて、薬草などをすりつぶして粉にする道具の「薬研」のように深くえぐれた状態の坂になつたので、やげん坂といわれ、それが「やけい」「はっけ」となつて、「はっけい坂」と呼ばれるようになつた。と、山王小学校記念誌「わたしたちの山王」には説明されている。

しかし、民俗学者の柳田國男に言わせると、また違う。八景とはアテ字で、ハッケもしくはハケといふのは、東国一般で、岡の端の部分を意味する普通名詞であるといふ。つまり、岡の端にあるからハッケ坂と呼ばれていたのが音をあてはめて、じやれた文字で八景坂と書くようになった。（地名考説より）

八ヶの景色は後でこしらえた、というわけである。前述の俳句の作者、景山は、大野貫藏と言ひ、山王在住の魚銀の主人、後藤浅次郎氏によると、代々大井村名主の名家であり、文化五年（一八〇八）に父のあとを継いで名主となり、文化十三年に帶刀御免となつた人である。杜格斎という結社をおこし、鮫洲・泊船寺にある芭蕉堂にて句会を催し、その一門数百人にのぼつたという。

この石碑は周辺の開発にともなつて、この神社境内に移されたもので、もとは八景坂上、大井村と新井宿村の間に建てられていたという。大森八景は、ここから眺められる四季それぞれの八ヶの風景なのである。すでにお解りのように、それゆえこの坂を八景坂といったというのが、一般的な定説である。

（津村雪雄）



八景坂

七は、古来から、幸せを呼ぶ数とされたからである。五節句に供える七草の祝儀、そして、七福神、七去、七賢、七転、七堂伽藍、七五三、七夜、七生、七つ道具と限りがない。七の数は、中国、印度からの影響もあった。それは七曜の制定のように、七が尊ばれ、日本にも重きをおすべく伝えられたからである。七曜を定めた時点で、七が数では最高位にあつたこと、それゆえ、七を、しめる、区切るに使うようになったのである。しめなわ、七五三、七歳にして幼児から童子へなどがそうである。また、歌や句のリズムも、七五調、漢詩の七言絶句など、区切りとして生がされ、それらが定着し、繁榮するとされたのである。

品川神社では、古文書にもあるという七鳥居ぐるりだが、七の数にこだわるのは、行事が始まってから鳥居が七基揃つたのか、それとも、七鳥居があつて、これは面白いということが始まつたのかなど興味がある。古文書というのは、資料としてはそうであつならないが、例えば、七福神詠にしても、化成以降、時の文人墨客らによつて、信仰と観光をかねて作られたものだし、当面の社寺では、急ぎ、七福神との関連を作るなど、それが文書として残されたのであつた。六阿弥陀にしてもそうである。阿弥陀詠が行事化するようになつて、それぞれが、寺に阿弥陀の因縁を話して作りあげたとされている。

くじらや信仰につながるという七の数字は、民俗学者と討論をしても結論はなかつた。答えにならないのである。そして、古來から伝えられる、「いわしの頭も信心から」の方が、いってみれば答えていえるかもしれない。しかし、七の意義をくらしの中に求め、定着させた日本人に、答えは必要ないのかもしれない。

太平洋戦場の謎

雲隠れした日本航空隊



〔ワシントン十二日發〕
若し日本の空軍が残存してゐるならば、その行方は如何なるか、これが目下太平洋戦場の大いな謎となつてゐる。米第七空軍のウリヤム・フランツ大將は次のように語つた。

「日本本土の飛行場から飛行機が全部消えて無くなつた様に思はれてゐる筈で、我々は既に危大な飛行機製作工場をも爆撃してその生産を阻害してはゐるが、しかし尚且日本には未だ數千機は残つてゐる筈で、日本軍から奪還した油田が再び採取可能の状態に復した旨報じてゐる。

れる、偵察飛行をしてゐるB29は内地本土の飛行場附近に散在してゐた日本機をもはや見かけることはなくなつた、我々は既に危大な飛行機を擊破し、その日本機をもはや見かけない状態になつたのである。

ある、これは恐らく、ガソリンの不足の爲め、早速戦に出動し得ない状態になつたのである。

P51九州を襲ふ

極東空軍新沖縄基地を使用

〔マニラ十三日發〕先週のマツカーサー將軍司令官によれば、去る三日同沿岸麾下の極東空軍所屬の第五空軍はマスターング(P-51)戦闘機四十機を以つて沖縄新基地八機を爆破した。

又和泉、大村その他三ヶ所の軍事目標に對し、

これについて極東空軍最高指揮官ケニー將軍は、

之は單なる手始めである。

〔重慶十一日發〕支那に於ける米支軍司令官ウエーフ・マイヤー中將は、

「米支軍は可及的速かに日本軍を支那の領土より驅逐すべく益々その決意を固めてゐる。これが爲には聯合軍は

若し日本が本土防衛の崩潰を一時的にせよ持続さうと欲するならば、この際速やかに支那から撤兵する外はない。

〔マニラ十二日發〕比島議會では、共同決議を以てマツカーサー將軍の肖像人りの硬貨並びに郵便スタンプの發行を承認した、右貨幣並びにスタンプには「防衛者解放者」の二句が刻まれる筈である。

沖縄軍政本部

住民の物的充實に重点

〔沖縄十二日發〕沖縄島の米軍政監部は同島石川町に本部を置き全島廿五万人の住民の復興工作に多くの努力を拂ひつゝあり、同本部には多量の食糧、醫藥其他の物資が配給の爲め持込まれてゐる附近の農場より運ばれて来る全ての食糧品は

現在住民が「ジャガ芋廣場」と呼んでゐる町の空地に集積せられ各人に對し割當配給が行われてゐる、材木其他建築資材も同様の方法によつて集收せられ、廢跡に發見

るやう家屋建築の作業も進捗してゐる。今度米軍當局では現在軍事施設として使用してゐる地域以外の農場を一時も早く復活せしめるやうに努力してゐる。

〔沖縄十二日發〕過去四百五十年の間封建の城郭百里城の通用門で鳴り響いてゐたと云つた

鍾を佛寺で懸ける意向を明かにしたが、そうなれば、繩市民達が再びこの鐘が米軍によつて發見された、一ヶの重さ約三百四十軒もあるこれらの大鍾を、コロンブスのアメリカ發見の何年か前に鑄造されたものである。

米軍政監局ではこれらの大きな鐘は、コロンブスのアメリカ發見の何年か前に鑄造されたものである。

又其米軍參謀は次の様に語つた。

「米支軍は可及的速かに日本軍を支那の領土より驅逐すべく益々その決意を固めてゐる。これが爲には聯合軍は數ヶ所の支那沿岸に地歩を獲得するなど茲三ヶ月來に著しい發展を遂げてゐる」

支那派遣軍の運命

本土防衛に撤兵の外無し

〔重慶十一日發〕支那に於ける米支軍司令官ウエーフ・マイヤー中將は、

「米支軍は可及的速かに日本軍を支那の領土より驅逐すべく益々その決意を固めてゐる。これが爲には聯合軍は

要がない。専門家筋では、クランの石油は太平洋聯合軍の必要量の一割を供給しき鐵錐を加へる、と語つた。マツカーサー司令官によれば聯合軍空軍は六月中に十六万四千八百噸の日本船と飛行機四十五機を破壊した、これ迄の出撃機數は二万一千四百三十機に及んだが、その間總計一万八千五百噸の爆弾を投下した。

〔マニラ十二日發〕比島議會では、共同決議を以てマツカーサー將軍の肖像人りの硬貨並びに郵便スタンプの發行を承認した、右貨幣並びにスタンプには「防衛者解放者」の二句が刻まれる筈である。

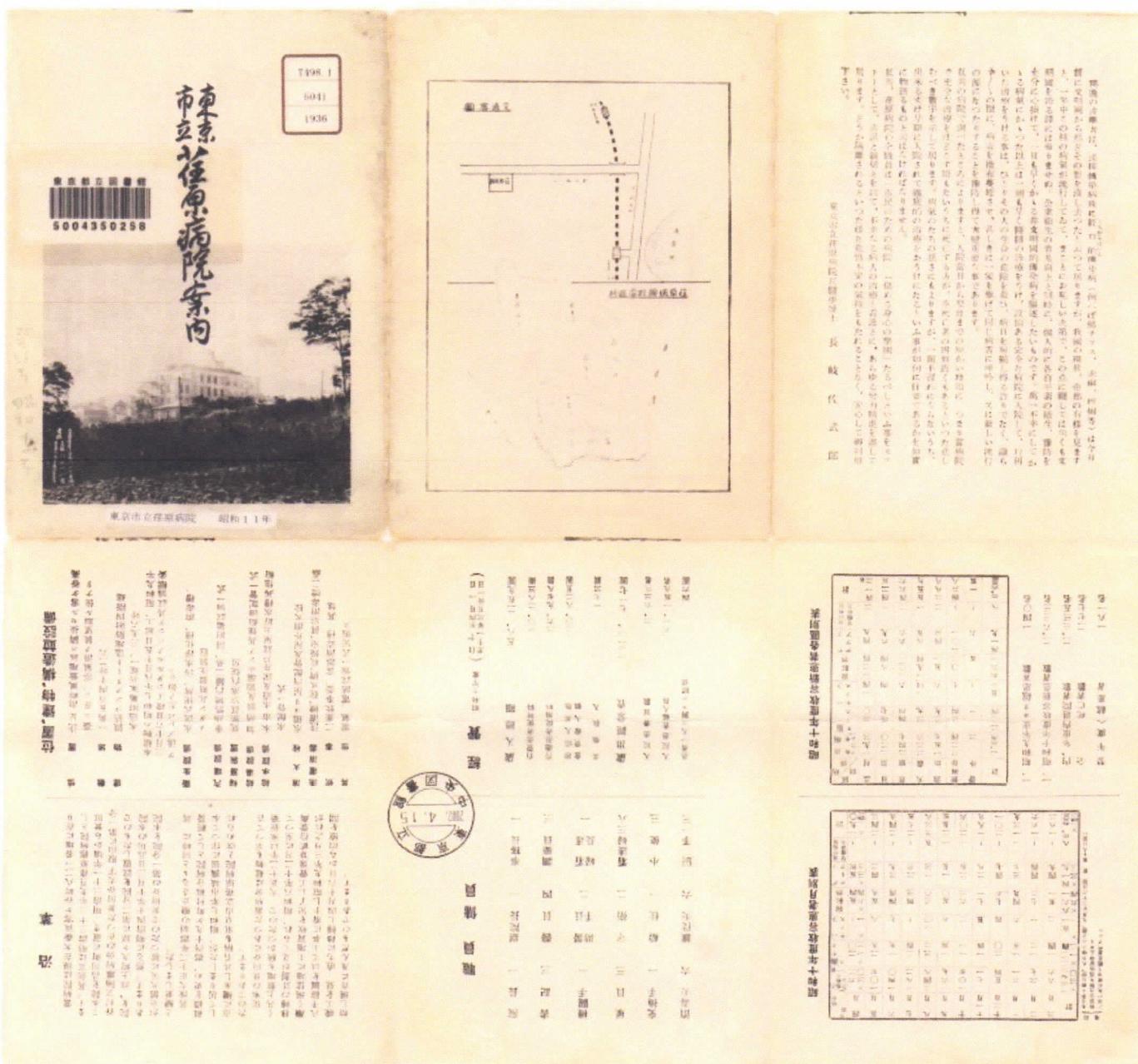
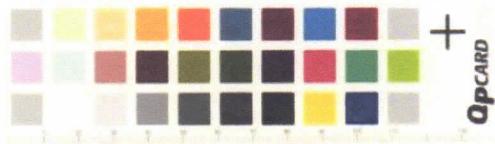
〔マニラ十二日發〕比島議會では、共同決議を以てマツカーサー將軍の肖像人りの硬貨並びに郵便スタンプの發行を承認した、右貨幣並びにスタンプには「防衛者解放者」の二句が刻まれる筈である。

〔ワシントン十三日發〕米陸軍次官パウターン氏は先週、太平洋戦域に於ける日本軍俘虜の激増振りを數字を擧げて次の様に説明した。

比島に於ける先週の俘虜たる俘虜の十倍に達し、生活を續けてゐたのである。尚これらの数は前月一ヶ月間に得たる俘虜の十倍に達し、

新日本の建設を決意 完備せる敵國人收容所 赤十字社代表マニラを視察

赤十字社代表マニラ



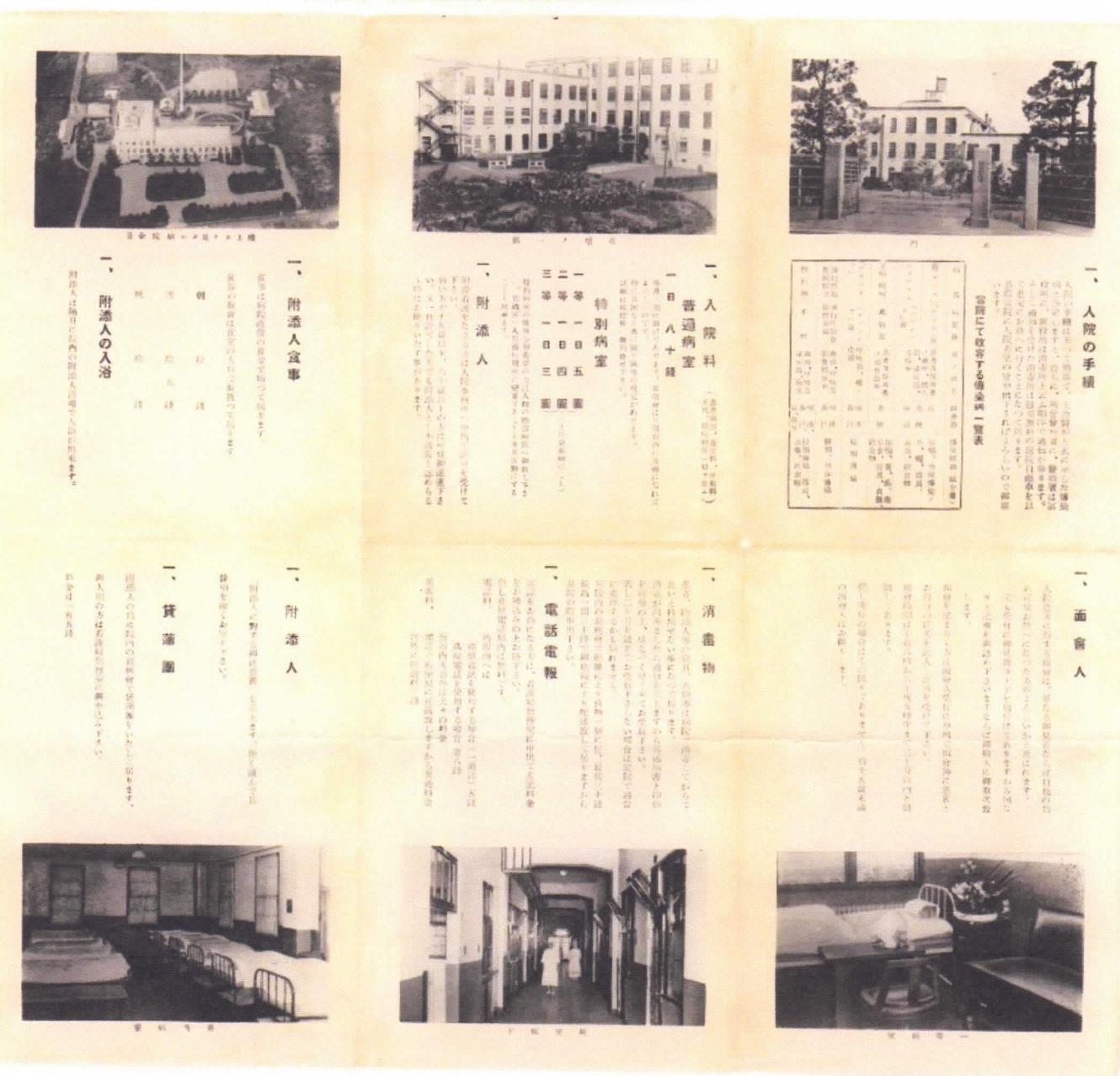
卷之三

三

東京都立中央図書館

T /498.1 /5041 /1926





T /498.1 /5041 /1936

東京都立中央図書館



東京府荏原郡勢要覽

廿二月入學二十七屆大

東京都公立図書館住宅地図総合目録

この総合目録では、都内公立図書館の住宅地図の所蔵状況を調べることができます。最新の所蔵状況、地図の閲覧方法等については、必ず各所蔵館にお問い合わせください。>[都内図書館一覧](#)

目録作成にあたっては、各区市町村立図書館のご協力をいただきました。

【参加：53自治体、データ：2013年7月末現在】>[この目録について](#)

大田区

[全年代を表示する▼](#)

■ 大田区 火災保険特殊地図（戦前）

■ 大森区；上 [1938] / 都市整図社, [1987] (火災保険特殊地図旧35区 No.11-1)

都立中央 (資料ID: 1123363620)

■ 大森区；下 [1938] / 都市整図社, [1987] (火災保険特殊地図旧35区 No.11-2)

都立中央 (資料ID: 1123363639)

■ 蒲田区；[1935-1940] / 都市整図社, [1987] (火災保険特殊地図旧35区 No.13)

都立中央 (資料ID: 1123363657)

[閉じる▲](#)

[このページの先頭へ▲](#)

■ 大田区 火災保険特殊地図（戦後）

■ 大田区[1]全体図・大森駅南口方面・大森方面 1 [1952-1959年] / 都市整図社, [2003] (火災保険特殊地図(戦後分) [10])

都立中央 (資料ID: 5008619397)

■ 大田区[2]大森方面 2 [1952-1959年] / 都市整図社, [2003] (火災保険特殊地図(戦後分) [10])

都立中央 (資料ID: 5008619412)

■ 大田区[3]梅屋敷方面・キネマ通方面 / 都市整図社, [2003] (火災保険特殊地図(戦後分) [10])

都立中央 (資料ID: 5008619421)

■ 大田区[4]蒲田方面；1952年 / 都市整図社, [2003] (火災保険特殊地図(戦後分) [10])

都立中央 (資料ID: 5008619430)

■ 大田区[5]蒲田駅方面；1959年 / 都市整図社, [2003] (火災保険特殊地図(戦後分) [10])

都立中央 (資料ID: 5008619440)

■ 大田区[6]蓮沼方面・矢口渡方面 / 都市整図社, [2003] (火災保険特殊地図(戦後分) [10])

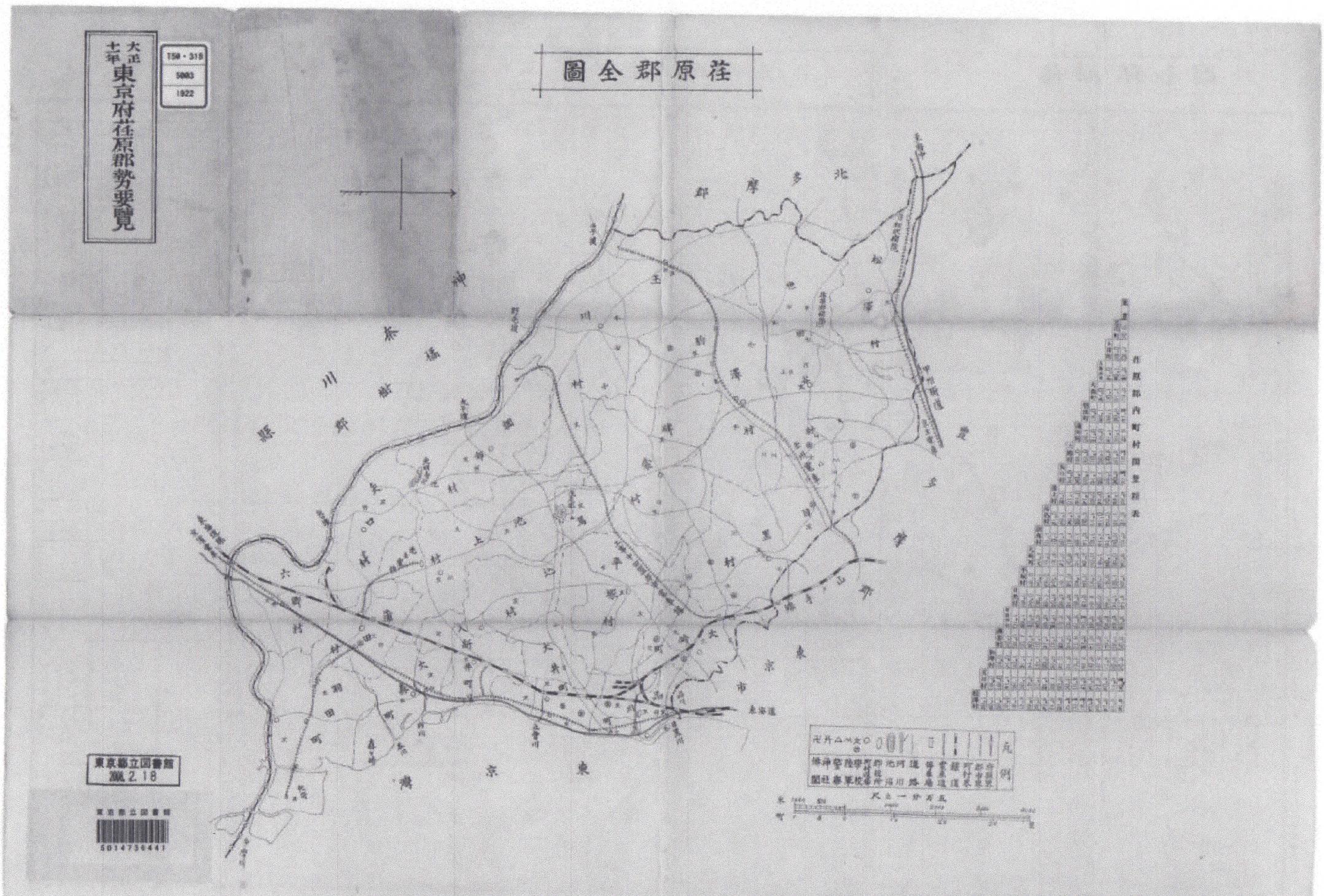
都立中央 (資料ID: 5008619459)

■ 大田区[7]武藏新田方面・仲六郷方面 / 都市整図社, [2003] (火災保険特殊地図(戦後分) [10])

都立中央 (資料ID: 5008619477)

■ 大田区[8]大鳥居方面・糀谷方面；1953年ほか / 都市整図社, [2003] (火災保険特殊地図(戦後分) [10])

1 /50-318 /5003 /1922



明治四十四年十一月廿日 印刷著作権所有者 東京遞信管理局

發行所 遷信協會

發行兼 東京市麹町區篠町四番地
印刷者 小林又七

四五

四六

四七

大字市野倉

上村

大字堤方

小字宿

